

2023年6月16日

学校法人三幸学園
横浜こども専門学校
校長 加藤 充洋 殿

学校関係者評価委員会
委員長 駒崎 海智

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 露木 峰子 (学校法人三幸学園 ぽけっとランド市ヶ谷 園長)
- ② 山下 綾 (社会福祉法人キリスト教児童福祉会 聖母愛児園 主任)
- ③ 清水 翔 (社会福祉法人みその 聖園子供の家 保育士：卒業生)
- ④ 駒崎 海智 (学校法人竹田学園 金の星幼稚園 幼稚園教諭：卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月13日 (会場 横浜こども専門学校 503 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 横浜こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大川 正裕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 駒崎 海智

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

本校では教育目標として「愛され 8 か条」を定めており、①挨拶する人 ②時間を守る人 ③素直な人 ④謙虚な人 ⑤感謝する人 ⑥前向きな人 ⑦協力する人 ⑧チャレンジする人 8項目が2・3年間で身に付けられるように日々の指導を行っている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・退学率低減 2022年度目標数値未達成のため低減できていない現状

2022年度目標

こども総合学科1年・保育科1年 10%未満→結果 13.4%

こども総合学科2年 5%以内→結果 5.5% / 保育科2年・こども総合学科3年 1%以内→結果 3.1%

・入学者の維持

2022年度入学生 288名 → 2023年度入学生 214名

・多様化する生徒に対応できる体制作り

ペア担任制の導入、ハイフレックス授業の導入

・教職員が安心して仕事ができる環境作り

時間外業務削減のために教務関連事務の簡素化、時間外業務時間の管理

② 学校関係者評価委員会コメント

・退学の理由がどうなのかが重要(露木委員)

→ 目標喪失・体調不良・学費・外部実習等々がある

実習と人間関係がきっかけで目標喪失に繋がることもある

・実習のハードルが高い(特に宿泊)と感じている生徒も増えてきている印象(山下委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・園、施設と情報共有を行い、保育業界の動向や求める人材像を正確に捉えること
- ・人材像や指導目標は定められているが、1年間通しての具体的な指導計画の策定までは至っていないこと
- ・新入生保護者説明会や定期的な保護者への案内の送付などで理解を促してはいるが、どこまで理解をして頂けているか不明な状態であること

② 今後の改善方策

- ・就職先や実習先との積極的な関係構築(実習就職連絡協議会の実施)
- ・カリキュラムマップを元に学科別、学年別の到達目標を作成し、指導内容の統一を図る
- ・生徒に対しても到達目標を明確に伝え、面談等を通して適切なフィードバックを行う
- ・オンライン保護者会など保護者との接点を多く持つこと

③ 特記事項

- ・年3回の全体会議にて、学園教育理念・ビジョン・ミッション・本校教育目標を教職員へ周知を図っている
- ・愛され8か条の項目毎に1年次終了時、2年次終了時になってほしい姿を明文化した
- ・カリキュラムツリーを元に人材育成像の整理を行った

④ 学校関係者評価委員会コメント

・在学中にも担任から愛され8か条についての動機づけをもらっていたと感じること、現場に入ってから特に挨拶については意識をして実践もできていた。現場でも先輩から挨拶できている、とお話頂くこともあった。(清水委員)

・保育園でもそうではあるが保護者は自分の子どもの様子を見たい。オンライン保護者会でも今の世代の保護者に合った内容で、例えば授業を受けている様子等を視覚的に伝えられるとよいのではないか。(露木委員)

・愛され8か条を意識して学生生活も過ごせていたことと入職をしてからも意識をすることもできていた。特に愛され8か条の内容を変更する必要はないのではないか。(駒崎委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・こども分野の目標、横浜地区の目標と本校の現状を踏まえた上での運営方針の決定の難しさ
- ・人事、労務、就業環境の整備に努め、業務の効率化を図る必要がある
- ・校務は担当主任が担当者と確認をしながら業務を進めているが、校務担当が主体的に業務を進められるように人材育成をする必要がある
- ・各教育活動の目的目標を明確にし、取り組みや活動については積極的に公開し、振り返り改善に努める
- ・教務管理システムが導入（WEB 出欠など）され業務削減に繋がっているが、運用上のルールの徹底が必要
- ・実施事項の多さや生徒対応に費やす時間増のため、時間外労働時間の増加

② 今後の改善方策

- ・こども分野の目標、横浜地区の目標を基準として部門目標の作成をする
- ・様々な管理システムを利用しながら、シンプルな体制作りに努める
- ・個々の育成像を明確にし、育成計画を役職者で共有し主体的に業務推進できるように育成をする

③ 特記事項

特になし

④ 学校校関係者評価委員会コメント

- ・ICT 担当を介してメンバーに伝達をする。基本的には Teams を使って情報共有をしている。今現場でも ICT の活用を整備している最中である。園には男性保育士で強いメンバーがいる。（露木委員）
- ・コドモンのアプリを今年度から使っている。写真で子どもたちの活動が分かるように毎日実践している。月 3 枚程度個人の写真撮影もしている。保護者とのコミュニケーションも取りやすくなっている。（駒崎委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・育成人材像、愛され 8 か条、カリキュラムツリーなど様々な指標をリンクさせ人材像を明確化すること
- ・明確化された人材像や到達目標を教職員が理解をし、指導内容の統一を図る必要がある
- ・本校の生徒一人一人が到達目標を理解し、必要に応じてフィードバックを行うこと
- ・現場と学校指導の差を埋める必要があり、今まで以上に意見交換の場を増やす必要がある
- ・ICTを活用した教育活動に関する知識、経験不足
- ・多様化する生徒、様々な事情を抱えた生徒の対応(時間・知識等)

② 今後の改善方策

- ・2 か月に 1 回教務目標を立て、強化するポイントを明確化する
- ・保育教育福祉の現場を知るための教員向け勉強会を定期的実施する
- ・関連分野との連携を積極的に行い、生徒が学外で学ぶ機会を多く作る
- ・同法人の保育施設との連携強化

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・IT に特化した委員会を設定している。日常的に子どもたちが使っているオンラインゲーム等の知識等、職員によつての差が出ないようにしている。(山下委員)

・保育園では図鑑の代わりに iPad を使うようになっている。低年齢児はダンス等を見るために活用をしている。コドモンは 1 枚しか写真を貼れないので Sway を使用している。子どもに関するプログラミング教育も今後実施する可能性もある。(露木委員)

・ICT に堪能な人は必要。教育において大事なものは熱・感情で伝えることであるが、ICT を怖がらない、落ち着いて対応をするための知識は得ておいた方がよい。例えばマット運動は動画を使えば自分がどう動いているのかがすぐにわかる。どれだけ ICT を利用できるのかを考えることは大切なのではないか。(加藤校長)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・目標喪失することなく、学習意欲を継続させる指導(1年次の退学率低減)
- ・生徒の学びの幅を広げるための効果的なメディア授業を活用方法の検討
- ・多様化する生徒への個別対応方法
- ・卒業後1年未満の早期退職の防止策の策定の必要がある
- ・卒業生との継続的連携方法

② 今後の改善方策

- ・1年生の退学率が課題のため、1年生についてはペア担任制を導入
- ・担任と教科担当教員の生徒指導意識の統一
- ・学生が面談や相談をする先を複数準備し、全教職員で対応ができる体制作り
- ・卒業生支援の体制構築(同窓会の活用)
- ・課題のある学生に対しての指導方法についての教員勉強会の実施
- ・メディア授業の活用における教職員のITリテラシー向上のための勉強会の実施
- ・スクールカウンセラーの有効活用

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・人間関係・家庭環境・能力等々を把握するうえで1人担任だと共有できる人がいないため、若手だと抱えてしまうケースもある。教員が見切れないとクラスが荒れていく傾向もある。ペア担任導入2年目なので今後も改良できそうである。(津留崎主任)

・意欲の継続については、ワクワクするものを忘れてしまったときに再燃できるようにできるような仕組みを作るといい。三幸学園の先生は生徒との信頼関係ができるからぼけっとランドに就職をした、と話す卒業生もいる。ぼけっとランドの入職者も人間関係・家庭環境・能力で崩れていく職員が多い。環境が変わると不安になる新入社員が多いため、保育園でも学校現場でも同じだと感じる。(露木委員)

・自分自身は学校を辞めたいと思ったことはない。同じ年代で引っ張れる生徒がいれば生徒同士で引っ張れることは大事だと感じる。今の子どもたちは元気ではあるけれど新しいものにチャレンジする元気がない。児童養護施設出身者の子ども大学・専門学校に入学しても退学をしている子どもが多い。(清水委員)

・離職率を下げるために1年目の研修を手厚くしているが、世代の雰囲気は年々変わっていき手厚くすればいいわけでもないと感じる。今の世代はセルフケア世代と呼ばれていて、自分で相談したいタイミングがあり、自分で選択して相談をしたいと思っている世代。体制をいかに整えたとしても結局は本人たちが選択をしている印象。

(山下委員)

・学校が理由である退学は防止をしていく必要があるため、退学理由についての分析は必要。一生同じ仕事をしていく時代ではない中で、学生時代をどのように支援をしていくのかも大事なのではないか。コロナ禍で行事の経験などができず、前に出ることができていない高校生が多くいることが心配。体育祭・文化祭のいざこざを経験しておらず、やるべき時にやるべき事を実施していない。(加藤校長)

・子どもたちがいない時間があっても勉強が頑張れるのかどうか。(大川副校長)

→ 友達と行事等々でがんばれた。(相澤主任)

実習のステップアップをしていく流れがよかった。大学中退した時には相談相手がいなかったが横浜こども専門学校では学校に先生も友達もいたのでそこが大事だった。子どもと関わる時間が増えたことでワクワクは増えるが学校を頑張ることができる意欲とイコールではないと感じる。(駒崎委員)

勉強は好きではなかった。実習も常に楽しいと思えたわけではなく、辛い思いがあったので子どもと関わる楽しさを実感できた訳ではなかった。横浜こども専門学校では、ベベママン(子育て支援イベント)等が実際に実施しているイベントに全生徒が関わることができると、純粹に子どもがかわいいと思える瞬間が提供できると思う。(清水委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・エリア担当制で担任以外も実習や就職に関する支援体制はできているが、変化する就職環境の情報収集を行い、日々の指導に浸透させていくこと
- ・様々な奨学金が整備され学ぶ環境の担保ができたとしても、その中で生徒自身の学ぶ意欲の継続させる方法
- ・生徒を取り巻く環境(実習先・就職先・保護者・卒業生など)とのネットワーク作り
- ・保護者の働き方が多様になり、就業時間内での連絡が取れず、教職員の時間外労働時間の増加
- ・リカレント教育に対応できる体制作り(教務面・受入れ制度の整備)

② 今後の改善方策

- ・奨学金貸与者に対して今後のマネープランなど金銭に関する指導を継続的に行う
- ・就職環境の現状把握のための教職員研修の実施
- ・多様化する生徒に対応するためにもスクールカウンセラーの効果的な活用方法の検討
- ・卒業生との連携強化をするためのツールの充実を図る

③ 特記事項

- ・経済的支援具体例

特待生学費免除制度、初期費用軽減・学費分割制度、日本学生支援機構奨学金制度
 保育士修学支援制度、教育訓練給付金、三幸学園経済支援制度

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・必要と感じている人は個人的に先生とのやりとりができていないのではないか。卒業生の同じ分野で就業をしている同士での情報交換会はあってもよいのではないかと。(清水委員)
- ・「同窓会」という名目だと重みを感じるのと情報交換会や小さい単位で実施をしていった方が集まるのではないかと。(駒崎委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・実習室や設備の整備は行っているが、求められる人材の育成を行う上で不足がないか、現場からの意見を頂き充実を図る必要がある
- ・メディア授業の充実を図るためにメディア授業に関する設備の整備
- ・ICTを活用した授業内容の検討
- ・ICTに精通した教員の育成

⑥ 今後の改善方策

- ・教育環境の振り返りと改善の継続と保育現場からの情報収集の実施
- ・ICTを活用した授業内容の策定、教員の情報リテラシーの向上のための研修実施
- ・教職員へ全体会議にて防災に関するマニュアルの確認の実施

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・防災訓練は月1回実施。火災・地震・Jアラートを組み合わせて実施をしている。(露木委員)
- ・月に1回実施をしなければならない。時間も朝・夜間と訓練を実施した方がよいが、日中での実施にはなっている。(山下委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・18歳人口の減少が進む中、保育業界の就業を希望する志高い入学者の確保
- ・保育業界の人気低迷のため希望者の減少
- ・本校の認知度向上と強みや特色を入学希望者や保護者へ打ち出すこと

② 今後の改善方策

- ・保育業界理解とともに本校の教育理念や特色を入学希望者、保護者へ分かりやすく伝えること
- ・高校の先生方に本校の認知度向上のための教員向け学校見学会を年2回実施

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校生ボランティアの受け入れも実施をしている。修学旅行で東京に来るのに園見学をする高校生もいる。園内にパンフレットを設置することもできる(露木委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・継続した法令遵守の徹底

② 今後の改善方策

・コンプライアンス研修の定期的な実施

・教職員に対して会議や掲示物などで法令遵守の徹底を意識させる

③ 特記事項

・2021年度自己評価結果をホームページにて公開

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・2022年度はコロナの影響があり、ボランティア活動先の確保が難しかった
- ・社会貢献、地域貢献として実施している子育て支援イベントの、コロナ禍においても安心して参加して頂ける環境作りが必要

② 今後の改善方策

- ・同法人の保育施設（ぼけっとランド・キッズ大陸）との連携強化
- ・ボランティア活動が今後増加するため、生徒が参加したいと思えるような働きかけの実施
- ・地域と連携し、貢献できる活動の検討の実施

③ 特記事項

- ・子育て支援活動（ベベマンウールズ）
- ・地域貢献活動（ハロウィンイベント、町内こども会、地域の遊びの広場等）

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・イベントを設けて子どもと一緒に遊ぶ体験をするのはよいのではないかと感じる。実習に行く前に授業の中で子どもと関わるとよいのではないかと感じる。（駒崎委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・他の専門学校・短大と比べて三幸学園の専門学校ほどよくやっていることはないと感じる。生徒によってワクワクも好きも異なるのでその生徒が主体的に学べるような環境を作れるとよいのではないかと感じる。（露木委員）
- ・卒業生たちは愛され8か条が備わっている生徒が多いと感じるし、愛されている子たちであると感じる。専門的な知識も大事ではあるが長い目で見た時に人として愛されることは大事であると感じる。（山下委員）
- ・現状を知って、保育業界の素晴らしさを伝えることで退学者が少しでも少なくなるとよい。（清水委員）
- ・虐待のニュースが出ていて疑問に思うこともたくさんある。待遇面が改善されれば本来のもっとよいところが見えてくるのではないかと感じる。（駒崎委員）